

メインシステム機種更新作業に伴うサービス休止

本センターのメインシステムは、昭和63年度に現機種(HITAC M684H及び682H)に更新し、目録所在情報及び情報検索サービスを実施しておりますが、利用者の増加とデータベース容量の増加に対処するために新しい機種(HITAC M880H/420及び880/210)に更新して、平成4年1月より、新機種でサービスすることとなりました。

更新作業量が膨大なため、従来の年末年始の目録所在情報及び情報検索サービス休止期間を以下のとおり延長して実施する予定です。ユーザーの皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、御協力よろしくお願いいたします。

サービス休止期間：平成3年12月16日(月)～平成4年1月6日(月)

この期間、以下の業務を休止します。

- 1) 目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)
- 2) 情報検索サービス(NACSIS-IR)
- 3) 総合目録データベース個別版、定期版の提供
(定期版は、12月11日が最終送付、1月8日から再開する予定です)
- 4) 拡張文字フォント移植

このことにより、オンラインでの目録データの入力計画や、個別版、定期版の利用による業務を予定している機関にあっては、特にご留意下さい。

電気設備定期保守作業に伴うサービス休止

電気設備の定期保守作業に伴う停電のため、目録所在情報サービス(NACSIS-CAT) を次 の日時停止いたします。御協力よろしくお願ひいたします。

サービス休止日時 : 平成3年11月25日(月) 9:00~11:00

学術雑誌総合目録和文編確認調査の中間報告

学術雑誌総合目録和文編確認調査が平成3年7月22日から平成3年8月31日までを調査期間に行われました。現在各参加機関から提出されたエラーリストおよびデータシートを点検整理し、所蔵データの修正、追加、削除については外注パンチしているところです。この調査に御協力いただいた各参加館にあらためてお礼申し上げます。

9月18日現在のデータの提出状況は以下のとおりです。

1) データ提出方法

書誌データ	オンライン入力	86	機関	(200 参加組織)
	データシート	539	機関	(715 参加組織)
所蔵データ	オンライン入力	87	機関	(179 参加組織)
	エラーリスト	534	機関	(706 参加組織)
	磁気テープ	4	機関	(30 参加組織)

2) オンライン入力状況

		'91. 7. 19~8. 01	'91. 8. 02~8. 15	'91. 8. 16~8. 29	合計
書誌	新規	39	63	184	286
	修正	605	808	1,189	2,602
所蔵	新規	2,822	4,794	6,659	14,275
	修正	6,486	12,220	41,832	60,538
	削除	1,118	1,628	2,008	4,754

※修正件数の合計は修正回数の延べ件数であり、純レコード件数ではない。

3) 提出リストおよびデータシート数

機関の種類		エラーリスト	書誌追加	所蔵追加	書誌修正	変遷報告
大学	国立	135部	312枚	119枚	526枚	149枚
	公立	92	183	64	230	20
	私立	448	1,232	519	1,614	143
(小計)		675	1,727	702	2,370	312
各省庁所轄研究機関等		155	284	161	552	86
合計		830	2,011	863	2,922	398

今後、センターではデータシート等で提出されたデータを総合目録データベースに反映させる作業を行います。最終的に総合目録データベースから冊子体編集用のデータを抽出する時期については、平成3年11月中旬を予定しています。したがっ

て直接、総合目録データベースで業務を行うオンライン接続館では、11月中旬までのデータを冊子体に反映させることができます。なお、正式な期日はニュース画面等でお知らせします。

所蔵データの修正に関しては、センターでのデータ編集期間中は次の点に注意して下さい。

ア 磁気テープで提出した所蔵データ

センター側での磁気テープロード終了の通知があるまで所蔵データの修正もしくは削除は行わないで下さい。

イ エラーリストで提出した所蔵データ

センター側での作業終了までHLV等の修正を行わないで下さい。ただしCLN、LDF、LTRに限ってはセンター側では更新しませんので修正ができます。

また、決して所蔵データを削除しないように注意して下さい。

ウ 所蔵追加用データシートで提出した所蔵データ

センター側で新たに所蔵レコードを作成しますので、参加組織側での修正はセンター側の作業終了以降に行ってください。作業終了期日は追って本ニュースレター等で通知いたします。

なお、書誌データの作成・修正の際には、今までと同様に、情報源コピーを添えた、入力日付入り「画面ハードコピー」と「変遷注記用データシート」を引続き送付して下さいようお願いいたします。

和雑誌の重複レコードを発見した場合は11月中旬まで「削除予定レコード」処理をせずに、センターに「目録情報に関する質問書」と画面のハードコピーを添えて報告して下さい。

重複書誌に対する注記

センターに重複レコードの報告があると、以下の2つのうち、いずれかの方法により、重複統合の処理を行っています。

1. 重複レコード処理プログラムにより、リンクの付替(所蔵、書誌)、重複レコードの削除処理を行う。
2. 上記のプログラムで処理できないものは、電話、FAX、ニュースレター等で所蔵の付替をセンターから各参加組織に依頼する。所蔵がなくなり次第、重複レコードを削除予定レコードにする。

このうち 2 の場合、所蔵付替が完了するまでの間、目録担当者がどちらのレコードを採用するか判断がつかず、削除対象となっているレコードに所蔵/書誌をリンクしてしまう可能性があります。

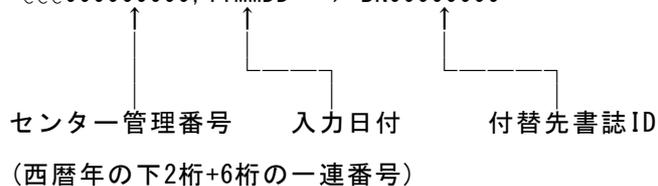
上記のような事態を回避するため、センターでは、削除対象レコードであることを示す注記を次のように記録することにします。この注記があるレコードは、リンクがなくなり次第削除予定レコードになるので、書誌/所蔵のリンク形成を行わないでください。

なお、この注記は当分の間、センターのみが書き込むこととします。各参加組織の目録担当者は書き込まないでください。

これらの書誌レコードに関する問い合わせは、NOTEフィールドに記録されたセンター管理番号と書誌レコードIDにてお願いします。

○ 注記の形式

1番最初のNOTEフィールドに記録する
NOTE: @@@999999999,YYMMDD ==> BN99999999



第2回総合目録小委員会・第1回ILLシステム開発協力 者会議の審議事項

日 時： 平成3年9月9日(月) 10:00～16:00

場 所： 学術情報センター別館会議室

報告事項:

1. ILLシステムに係る経過報告について
2. ILLシステム仕様の追加報告について
ダウンロード画面についての仕様を各メーカーに改めて送付することになった。

審議事項:

1. ILLシステム対応のローカルシステムについて
 - 1) 作業用帳票の様式について
次のことを確認した。
 - ア) 帳票自体の大きさ、文字、表示形式等は、ローカルで決定すべき事項とし、本会では、表示すべき項目の種類と内容について検討し、最終的な調整は次回の会議で行う。
 - イ) 料金等の入力オプションとし、運用面で調整する。
 - 2) ローカルシステムの要件について
5大学の委員から、ローカルシステムの取り組み状況と問題点について報告があった。また、ローカルシステムの要件については、モニターまでに開発が期待される項目として、1 ダウンロード機能、2 作業帳票の出力の2点が確認された。
 - 3) モニター計画について
モニター計画について次のことを確認した。
 - ア) 作業帳票の出力がモニターまでに間に合わない場合は、画面のハードコピーで作業を行う。
 - イ) モニターの目的は、ローカルシステムの評価をするには時期尚早とことから、総合的な評価よりもセンターシステムの評価を主とし、むしろILLシステムに対応する業務体制を検討するための機会を提供することとする。

4) ILLシステムテスト版の未解決事項のうち、モニターまでに解決する予定の事項について報告した。

ILLシステムダウンロード用画面の仕様

ILLシステムの概要については、ニュースレターNO.29で紹介しましたが、未決定となっていました事項は以下のとおりとなりました。

(1)仮想画面の構成

- ア フィールドの構成
 - ・ 1項目/フィールドとし、データ1にタグ名とデータが入力されている。
 - ・ タグ名とデータの区切りは '=' で表す。
 - ・ 要素の区切り (1フィールド 内に複数要素が入力される場合) 各要素の区切りは '!?' で区切って表示する。
- イ エリアの構成
 - ・ エリアは、エリア番号2以降に格納される。

エリア	フィールド	デ ー タ	論理レコード単位
2	⋮	⋮	}nレコード
2	950	ALDF=.....	
2	951	ID=LA.....	
2	952	STAT=処理中	}n+1レコード
⋮	⋮	⋮	
2	999	POSTG=200	
3	001	SUM=1000	}n+2レコード
⋮	⋮	⋮	
3	031	ALDF=.....	
3	032	ID=LA.....	}n+2レコード
3	033	STAT=処理中	
⋮	⋮	⋮	

- ウ 画面イメージ: [別紙](#)のとおり。
- エ 画面項目: [別表](#)の通り。
- オ レコードの先頭: 「ID=」

(2)MDOWNLDコマンド ダウンロード用画面を表示するための MDOWNLDコマンドに関して、前回通知した内容について以下のように訂正した。

- ア オペランド「n1..n5」は削除。
- イ オペランド「n1 n2」は「m n」が正しい。
- ウ オペランドで指定可能な最大件数は100件とする。

(3)MDOWNLDに伴う画面遷移

- ア ダウンロード用画面 (I1030, I2030, I3040, I4040)において有効なコマンドは、「BROWSE」「DISPLAY」「MDISPLAY」「MDOWNLD」「RETURN」とする。
- イ BROWSEにより簡略表示に移行する際に、オペランド指定がない場合は現在のダウンロード用画面の最終レコードの次のレコードから簡略表示する。
- ウ ヌルコマンド(空送信)の場合は無効として画面の遷移をしない。

ILLシステムのモニター実施計画

当センターでは、平成4年度からのILLシステムのサービス開始に向けて、現在、センター内での運用テストを重ねておりますが、正式運用に先立ち、次の要領で全国規模による試験的利用(モニター)の実施を計画しております。

1. モニター期間：平成3年11月11日(月)～平成3年11月22日(金)
2. モニター機関：国公立大学図書館約60館
(該当館には学術情報センターから別途依頼しました。)

3.モニターの概要:

1) 目的：

ア ILLシステムのセンターシステムの評価を行う。

イ ILLシステムのテスト版でデータのやりとりを経験することを通じて、各大学における4月以降の業務態勢の整備に必要な情報を収集する。

2) 日程：

平成3年11月11日(月)～平成3年11月22日(金)

ただし、新規依頼は平成3年11月11日(月)から平成3年11月15日(金)までとし、以降は新規の依頼レコードを作成しないものとする。

3) 内容：

(1) 教育システムの利用

モニター館では、モニターに先立ち基本的な操作等を確認できるように教育システムを利用することができます。また、この教育システムはモニター期間中(11/11～11/22)でも、端末操作の確認のために利用することもできます。

(2) 業務システムの利用

実施期間中に発生する文献複写の依頼と受付業務を、ILLシステムを使って実際に処理します。当然ながら料金の支払いに関する債務・債権が発生します。

(3) 利用者ID

教育システムと業務システムは別々の利用者IDを発行します。

(4) 複写業務のみの利用

今回のモニターではなるべく期間内にレコードが終了状態になるように、文献複写の業務だけとします。現物貸借の業務は選択できません。ただし、1の教育システムでは現物貸借業務の流れを確認することができます。

4) 利用環境 :

ア ILLシステムは、現在の目録システムの教育モードの環境で利用できません。

イ 現在、目録システムが業務モードのみの設定になっているローカルシステムにおいては設定の変更を必要とする図書館もあります。

ウ ローカルシステムによっては、ILLシステムの固有のコマンドが使用できるようにローカルのコマンドテーブルの再定義を必要とする図書館もあります。

5) 精算関係 :

今回のモニターにおいてILLシステムの業務システムによって処理した国立大学間の文献複写のデータについては、当センターから大阪大学附属図書館複写データ処理センターに当該データを送付しますので、受付館から大阪大学あて、文献複写依頼書B票を送付する必要はありません。

6) 評価方法 :

ア モニター終了後に、システムの操作性等に関する評価のチェック票を提出していただきます。

イ モニター終了後は、センターから各モニター館あてに統計表やダンプリスト等を送付いたします。

4.その他

今回モニターとして依頼しなかった大学図書館等については、モニター終了後に別途試験的利用の機会を提供しますので、専門・電子情報係までお申し出下さい。

ILLシステムの全国説明会・講習会の予定

ILL業務担当者の方を対象に、平成4年1月(20日～31日の間の半日を予定)に全国6ヶ所において、ILLシステムの説明会を実施する予定です。

また、平成4年2月(17日～21日(1日コースで計5回)を予定)に学術情報センターにおいて、平成4年4月からILLシステムの業務運用を開始する図書館の担当者に対し、操作講習会を実施する予定です。

いずれも、日程が決定次第ニュースレター等でお知らせします。

目録システム利用マニュアルデータベース編の訂正・改訂

ニュースレターNo. 24、No. 28、No. 29でお知らせした訂正・改訂箇所、およびその後判明した訂正事項を、[以下の一覧表](#)にまとめました。確認をおねがいします。

ニュースレターNo.30の訂正

ニュースレターNo. 30の以下の箇所に誤りがありました。以下のとおり訂正します。

頁	行	誤	正
5	下から9行目	作曲者が不明を有しない音楽 作品名	作曲者を有しない音楽作品名
7	上から4行目	Song of lamentation (1980)	Klagende Lied (1980)
8	下から8行目	ヴォーカル・スコア → ... SMD:c	ヴォイス・スコア → ... SMD:d